

# 未来のへ地団

建設未来フォーラム

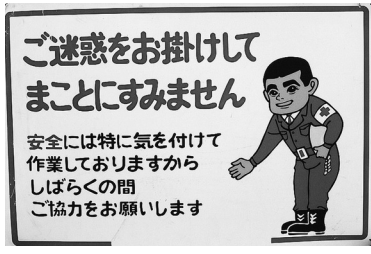
代表 佐藤 士朗

不思議でたまらない  
ことがある、セミ

ナーの休憩時間中に  
あるベテランの工事

の工事のため  
でもっと堂

⑫



よく見る工事看板。すべてが  
この文面ではなからうか...

「なぜ工  
事看板には  
よく頭を下  
げてご迷惑  
をおかけし  
ますと表示  
されている

「その工事  
部長から  
返ってきた言葉はこ  
うでした。

## 自然災害と建設業 ⑫

「佐藤さん、それ  
は違うんだ。俺たち  
は仕事をやる上で、  
それがたとえ地域の  
ためであっても現実  
的に施工の中で騒音  
をまき散らし、ほこ  
りを立て、場所によ  
っては通行の妨げ

ことになるんだ。だ  
から申し訳ない、終  
われば環境もよくな  
るからそれまでがま  
んしてくださいとい  
う意味で迷惑をお  
かけしますと言っ  
ているんだ」

貢献とか創意工夫と  
かいうきれいなこと  
の言葉ではなく、ま  
さに地域を向いて地  
域のために、たとえ  
それを途中経過で迷  
惑がられても信念を  
もって仕事に取り組  
む姿を見せつけられ

の中にはプロフェッ  
ショナルとしての信  
念が隠されていたの  
でした。

もしかしたら現場  
に看板を立てないの  
は私たちが地域住民  
のためにはいいこと  
があるかもしれない  
「お疲れさまです  
という挨拶を自然に  
交わせるようになる  
ことが本来の三方良  
しのあるべき姿では  
ないかと考えていま  
す。

## 「ごめんなさい」にプロの信念 向くべき方向性は？

を起こしている。地  
域のための仕事をし  
ているからこそ逆に  
地域に迷惑をかける

時に私自身ものすご  
いショックを受けま  
した。

たのです。  
「ごめんなさい、か  
ら始まる公共工事で  
すが、ごめんなさい

便利で安全な生活  
環境がほしい、でも  
工事は嫌だという矛  
盾した想いの住民  
を相手に、受発注者

三方良し実現の鍵  
は私たち地域住民が  
握っているのかもし  
れません。

# 未来のへ地団

建設未来フォーラム

代表 佐藤 士朗

仕事とは自己満足  
で終わらせるもので

はなく、お客様に喜  
んでもらえることが  
何よりの評  
価になって  
くると思い  
ます。

だき、この  
仕事をして  
良かったと  
心から感じ  
たという話  
もよく聞か  
れます。

⑬



次世代へ受け継ぐことは、責  
任であるのではなからうか...

公共工事  
が終わり、  
地域からの  
感謝状やあ  
りがとつ  
言葉をした

今回の九  
州北部豪雨  
災害でもあ  
る住民からの感謝の  
手紙が届いていまし

## 自然災害と建設業 ⑬

### 被災住民からの感謝の手紙

### 生活を守っているのは...

れるだけでなく前を  
見て生きていかなけ  
ればならない。  
心から感謝します、

被災者の大変さ、  
自衛隊やボランティア  
の活躍ももちろん  
大きなニュースー

南海トラフ地震等  
これから先も大災害  
が予想されている今、  
私たちの生活を守っ

てくれるのは誰なの  
か、何のための公共  
事業なのか、なぜそ  
れが必要なのかを地  
域住民自身が理解し  
ていく必要があるの  
ではないでしょうか。

発注者も工事成績  
評定や総合評価とい  
う仕組みの中ですべ  
てを建設業者に押し  
付けるのではなく、  
地域のための役割を  
持った立場として建  
設業者と共に公共工  
事を理解してもらえ  
る努力をしていく必  
要があるのではない  
でしょうか。